滿洲日報

○報價目
每月收取八角代賣所及送報人幷無分毫加增

○告白刊例
一行五號二十一字起碼登一日者每行二角每登十日行一角五分登月者每行每日一角登長年者價當面議從減　每張四百文

特別廣告

▲資本金貳千四百萬圓
▲積立金一千零拾四萬圓

本支店出張所
横濱　神戸　東京　長崎　大阪
倫動　里昂　紐育　桑港　布哇
孟買　香港　上海　天津　北京
大連　旅順　奉天　芝罘　鐵嶺

電話　十番　支配人室
　　　百八番　事務室

横濱正金銀行牛莊支店

滿洲日報各地賣捌所
滿洲日報廣告取次所

大連市穩岐町三百三十八號　**日華運輸公司**

遼陽　遼陽倶樂部　**谷口今朝太郎**

M. Iizuka,
CONTRACTOR,
ARCHITECT AND CIVIL ENGINEER.

Plans and specifications made to order.

ESTIMATES SUBMITTED.
MODERATE RATES.
No. 151 Yuwansinmiao
Ying Kow

醬油釀造販賣
●樽詰 ●瓶詰 ●桝賣
御小賣共精々廉價に販賣仕候御進物として至極体裁宜しき特製四合入瓶詰一打箱入も有之候間多少に拘はらす御用被仰付度奉希上候尚御用の節は下名の内何れにても電話にて御申付被下候はゝ直に御届け可申上候

綏定門街　**東肥洋行**（電話一七號）
二官街　**東來醬園**（電話百二〇番）

三井洋行

啓者本行開創在中外通商各埠已有年歷所售棉紗棉布火柴煤炭糖海參等各貨均皆物美價廉名馳遠近如蒙各商光顧請駕臨是荷

●精製白砂糖新入荷物あり

倉庫部
今回倉庫所在地（青堆子精搗場上陸り河岸）の取扱所に電話を架設致し候間貨物の出入其他倉庫に關する一切の件は仝所へ御照會被下度願上候
（電話百二十八番）

宅合名會社 [illegible]

本號前在營口東營元神廟街自造日本酒澤鶴印幷一切雜貨其名譽己傳播於滿洲全地今又擬在西營子老爺閣街同成德院內分設支店一所發賣綿絲粗布火柴絲布絨衣荷標布手巾花巾東洋緞子洋襪鉀表貨物俱全而價値尤格外從廉且貴客賜顧時另派有一華人宋厚田氏細心接待以便商議一切凡中外士商賜顧者請辱臨爲幸
總司理人　田中賴之助謹白

東盛和

本號在營口創設二十餘年專辦出口餅油豆各等土貨進口棉紗布疋火柴洋麵糖煤雜貨發行並滙兌銀錢兼代客經理買賣租船裝運事宜營口廣東兩處自建碼頭貯油餅豆米棧房地方寬大凡泊輪船裝卸貨物極爲利便能泊輪船二艘更爲合宜兼置有輪船一艘名域多利能載重二萬担如有欲租船運貨及存棧貨物水脚棧租格外從廉　貴客賜顧請到小號面議是荷
總司理人　葉亮卿謹白

東永茂

機器油房在營口創辦油榨生意多年以本營業非祇做油房壹事及經理買賣雜貨布疋等物幷代客莊運汽船配載事宜三井行與本店素稱交厚並與各南北客經理有年誠信相孚遐邇知之
正理事潘玉田　副理事金德魁　設在營口西北街路南

西義順

本號開設營口西街老爺閣前路南警乙第五號專管裝卸輪船上下各貨照料穩妥堆棧寬大凡中外士商賜顧者請認明招牌決不致悞　本主人敬啓

仁裕號

係裝運各幫火輪船生意兼賣各幇洋什貨糧石等此佈
營口西大廟街路北警乙第十二號

恒有長

本號開設在西大廟街路南第十一號廣福雜貨一應俱全價値格外從廉克己幷另設銀爐包營銷鑄以應急需久爲商所推許凡賜顧者請認明招牌爲荷

元茂盛

油坊買賣元荳油荳餅雜色糧石以及代客購辦雜貨布疋一概發行裝運沙寶鳩船交易南北客商歷有年矣爲此謹白
開設營口西街老爺閣前路北警乙第四十九號

德商 **瑞生洋行**

啓者本行由外洋運來金山松木大小方子厚薄板片以及樓板並有道木性皆堅固貨高價廉賜顧者乞至本廠面議
營口西街潮[illegible]西本行[illegible]人啓

代代木烟公司

本行專售日本官造紙烟星象牌（斯達）櫻花牌（捷利）百合花牌（利利）均巳馳名內外茲特選上等烟料加工精製雙仙鶴牌（隆沽來福）清香撲鼻件美適口而價値極廉諸督欲購可向敝行或請至本行公司代理店西營口大德元採買庶不致誤謹此廣告

田中牛莊分莊

啓者本舖開設於東營口綏定門外經大阪丸二組精造東洋緊身洋式襪子羊肚手巾各樣新近進口來的貨寄於本舖代售格外從廉　賜顧者請光臨本舖而觀是幸
田中牛莊分莊謹啓

森病院

一診察　自午前八時至正午十二時　自午後三時至午後五時
一往診　午後三時より
△患者の入院治療を諾す
△貧困患者の施療は正午十二時より一時迄
姙婦の入院を諾す（取扱主任產婆大道しけ子）
院主　森　嶠
醫長　鈴木昌平
營口永世街（電話一五五番）

諸鐵工製作

鑛山機械鐵工
船舶機械鐵工
輕便鐵道附屬鐵工
土木建築用鐵材料
其外鑄物諸般

營口綏定門　ブリツジ商會　東街
川喜鐵工場

西海洋服店

歐米各國最新流行形
永世街一四一（森病院三軒目）

寫眞 永清

奉天府　大南門裡路西

島田洋服店
東營口郵便局東鄰

同支店
新民屯停車場前

一關內外盧漢鉄道貨物運輸（但シ營口新民屯間ノ鉄道輸送ハ特ニ充分ナル御便利ヲ圖リ可申候　但弊店事務所及郵船會社代理店內派出員ニテ事務取扱）
一海關手續
一鈔關手續（但西營口鈔關裏手東玉昌方ニテ事務取扱）
一船舶荷物取扱
一其他水陸貨物運輸ニ關スル諸業
右營業仕候間陸續御用仰付被下度願上候
營口西北街第二七二號
大清通運公司 營口支店

隆慶公司

開設在東圍門外自有碼頭恬豐木局以西南近馬路德記木局以北發售唐山大小塊砟子貨美價廉裝卸舟車極便凡賜顧者請認明招牌庶不致誤謹啓

大日本政府特定
官製口付紙捲煙草
滿洲一手輸入發賣

江副洋行
營口永世街

各種材木
廉價大販賣

塩川商會
營口永世街二一本町

和泉洋行

本店開設在營口重盛街、發賣毛布、手巾、小布衫、鏡子、錢袋、帽子、洋蠟、小刀及其餘各種雜貨一概俱全價値格外從廉克己、凡中外仕商賜顧者、請速臨爲幸、
大阪府堺市熊野町　藤原謹啓

飯塚工程局　材料出售

啓者本局今特與日本北海道天鹽木料公司商訂以日本輪船運到各種木料品質精良久已馳名四遠以之架造屋宅及製各色傢具無不合宜且價値格外從廉克巳凡中外士商賜顧者請來本埠東營口元神廟街本工程局面議不悞
本主人啓

材木販賣　荒物

秋田洋行
營口永世街第一八四號平野町
本店　下關　秋田寅之輔商店

日商 **東來醬園**

本醬園開創在營口双橋子南有年係請大日本著名工師自造日本醬油所造醬物料專選上等麥豆曡經沙漏之水寒熱適度加意製出故其色麗質淨味美氣芳可以供上等烹飪之用其價値甚廉非尋常市油所得而及蓋用市造之油烹物之費多而鹽梅之効少若用此油則醬味調和必諧不特于衛生之道受益不少象爲厚生利用之妙品也賜顧紳商請嘗試之立知本醬園所言非爲張之談矣
本園主人謹白

代理　道勝銀行

啓者本行代理道勝銀行匯兌以及押款借款等項格外公道如蒙賜顧請移玉本行帳房面議可也
德商　瑞記洋行代理人謹啓

貸金業

確實なる擔保品には精々勉強安利を以て御相談に應す
南永世街百二十七號
質屋　富田茂治

青豆價錢六吊川百七十文至六吊二百文
合豆價錢五吊六百文至五吊四百五十文
小米價錢七吊六百文至七吊二百七十文
紅糧價錢五吊五百文至四百五十文

赤味噌　大樽　同四圓三十錢
札幌麦酒　四打入　同九圓八十錢
蜂印香竄葡萄酒　仝　同二十二圓五十錢

筍　二打半　同八圓五十錢
梨　四打　同十一圓
桃　仝　同九圓五十錢
人形ミルク　仝　同十二圓五十錢

小四百五十本入
六千二百本入　同十六圓
（宅合名會社調査）
澤鶴　正味四斗四升入　十七圓
サツポロビール　九圓七十錢

Payable in Advance. Postage Included.
The Manchuria Daily Report Office.
Newchwang.
Telephone No. 29.

一長期連揭減價面議
發行所　清國營口中盛街
滿洲日報社（電話二九番）

東京電報

●駐米獨大使の任命

（一月十日特別通信員發）　子爵青木周藏氏は駐米國大使に任命せられ現駐獨井上公使を陞して特命全權大使と爲す旨御沙汰ありたり

●桂大將の補任

陸軍大將伯爵桂太郎氏軍事參議官に任せらる

●四次官の新任

若槻禮次郎氏大藏次官に加藤友三郎氏海軍次官に河村讓三郎氏司法次官に仲小路廉氏遞信次官に孰れも任命せられたり

北京電報

●清帝の協約御批准

（一月九日特別通員發）　清國皇帝は本日午前日清協約を御批准あらせられたり

倫敦電報

●英國首相の選擧演說

英國首相バンナーマン氏は選擧演說に於て左の如く言明せり

統一黨は其外交政策に於て曩に我黨の指摘せし好ましからぬ所見を放棄せしを以て我黨内閣をして從來の穩和的方針を離れす前内閣の外交政策を繼續實行するを得るに至らしめたり我黨内閣の任務は財政整理、地方自治、自由貿易、民權及び宗教の自由を支持し近來政秕の爲めに生じたる弊害を匡正し以て社會改善財政整理の實を擧くるに在り　（一月八日發）

●英獨兩國親善の集會

獨國に於ては相變らす英獨兩國の親善を期し種々なる集會を催せり

●元老院議員選擧の珍事

佛國元老院議員選擧の際社會黨記者リオール氏及び氏の同僚は甚しく毆打せられたり

●英國議會の解散

英國皇帝陛下は昨日議會の解散を命せり　（以上一月九日發）

雜報

●現閣と第三流内閣

桂内閣を以て第二流内閣とせば西園寺侯の率ゆる新内閣は則ち第三流を以て目すべきか西園寺侯の聲望は固より桂伯の比に非ずと雖も入て内閣に列せる者政黨よりせる原松田留任の寺内前外相たりし加藤四氏を除けば其三人迄は第二流内閣に次官たりし者にて前内閣に比し更に輕さやの感あり戰後の難局に處して果して能く大鼎を調理し得べきやと氣遣はるゝも西園寺侯の指揮下に敏活の動作を爲し得るは却て個々に有力家の其力を恃みて事毎に異議を生じ爲めに内部の不統一よりして瓦解を招くが如き虞れ少けれは則ち輕しと雖も實務を擧ぐるは却て這次の第三流内閣にあらんかなど說く者あり記して之を後日に徵すと爾云

●藩閥と財閥

公卿華族を大將に戴ける新内閣は所謂混成内閣にして其形よりせば一内閣は一内閣より閥閥の臭味を脫却し來りて特に齋藤氏の海軍に大臣となれるが如きは以て一時の耳目を新にするに足れるが如しと雖も仔細に查察すれば依然藩閥と財閥との持切にて首相西園寺侯は長閥の一首領にして寺内氏亦長州の出山縣氏は則ち元帥侯の女婿にして伊太利公使より入て文相の椅子を占むべき牧野氏は故大久保公の遺子而して坂谷加藤の二氏は則ち隱然後に財閥を擁して以て今日の地位を爲し新に米獨大使に任せられたる青木井上兩大使は純然たる長系にして殊に井上大使の伯井上の力に賴れるの多きを知らば日本の政治は内閣の幾更迭すとも國民の内閣たるは遂に得て望むべからざるに非すやとは某政客の憤慨談なりとぞ

●政變顚末の公表

西園寺侯は新内閣組織に至りたる我政變の眞相及び新内閣の立場を詳說し之れを英米佛三國の有力なる新聞紙に宣示すへしといふ因にその草案は某文士の手に於て既に脫稿し目下翻譯中なりと聞く

●議長問題の折合

議長問題に關しては政友會は雅量を示し進步黨に花を持たすることに略決定せしも前期議會以來兩黨提携の骨子たる常任委員及び特別委員の選擧に於ては大同俱樂部の要求に對しても冷々に看過する能はさるの事情あるのみならす政交俱樂部に對しても同樣の事情あり旁々前回の如く政進兩黨の獨占といふ譯には行かさるへしといふ

●露國明年度豫算

露國新聞スラウォの報道する所に據れは千九百六年の豫算には滿洲露軍の還送費及び日本に支拂ふべき虜俘の經費として英貨四千萬磅を計上しあり又海軍費は三百八十萬磅に減額せられたりと云ふ

●在滿洲日本俘虜

哈爾賓に收容の本邦俘虜百五十餘名は去三十一日皿圖に於て受領し其後更に四十餘名去二日同所に於て受領せし由なるが聞く處によれは今迄滿洲にありし同胞俘虜は孰れも病傷者のみにて本國に後送する能はさりしものにて總數二百八十餘名ありし由なれは近日引續き行はるへき第三回授受に於て滿洲にある同胞俘虜は全部受領濟となるへしといふ

●各艦隊の編成

第一、第二、南淸及び練習の各艦隊は今回左の如く編成されたり

▲第一艦隊　八雲、淺間、常磐、磐手、吾妻、出雲、音羽、千早、對馬、假裝巡洋艦姉川丸、驅逐艦有明、吹雪、霰、彌生

▲第二艦隊　壹岐、沖の島、千代田、和泉、新高、須磨、龍田、假裝巡洋艦滿洲丸、驅逐艦村雨、朝潮、朝霧、白雲

▲南淸艦隊　高千穗、千歲、宇治、隅田

▲練習艦隊　橋立、嚴島、松島

●小村大使參内

一日午後三時十五分新橋著別仕立汽車にて歸京したる小村全權大使は各隨員を從へ一旦霞ケ關の官邸に入り改服の上更らに隨員と共に同四時參内し御座所に於て拜謁仰付けられ親しく日淸協約成立の顚末を伏奏したるに陛下には優渥なる御諚を賜はり大使は同五時過ぎ御前を退出したりとなり

●二戰艦回航期

軍艦香取鹿島兩回航委員長の一行着英の上艤裝を了へ一切の回航準備を整へて内地に歸着するは多分本年九月頃なるへく而して兩艦共蘇士運河を通河する由なるが一萬六千噸以上の戰艦が同運河を通過するは之を以て嚆矢とすといふ

●安藝の起工式

日露戰爭の教訓による我海軍の理想的戰鬪艦薩摩の姉妹艦たる安藝（一万九千餘噸）は吳軍港に於て先頃進水したる筑波の船臺の跡に龍骨を据付くる筈にて近々その起工を擧くといふ

●列國の軍艦備砲數

現下に於ける世界海軍國の軍艦備砲數は左の如し

英國	一千八百四十一門
佛國	六百九十七門
米國	五百五十四門
獨逸國	四百九十八門
伊國	三百三十二門
日本國	三百〇三門
露國	二百七十四門

●水產銀行設立調查

第廿一議會に於て建議案として通過したる水產銀行設置の件はその後關係各省に於て審查討議の末愈ゝ脫稿せしが資本金は一千萬圓とし五倍の債券を募集し得る規定にて本期議會に提出の運ひとなりたるも勸業銀行側及び大藏省の一部に於ては尙多少異議を唱ふるものあり昨今尙交涉中なりと

●韓國統監府員先發

木内商工務總長は今明日中に東京を出發すへく又た岡警務總長も伊藤統監出發前出發醫師小山善氏は統監府附仰付られ統監と共に出發する筈なりといふ

●大島大將の靜養

目下歸京中なる關東總督大島大將には靜養の爲め去月廿九日午前十時新橋發汽車にて鎌倉なる前田侯爵別邸に赴かれたりといふ

●英大使館の門松

本年の新年には麴町五番町なる英大使館にては正門に日本風の門松を樹て中央に切竹を植ゑて大なる裝飾を施したり昨年までは外國風の緑門なりしに本年純然たる日本風の門松を立てたるは大に注目を惹きたりと

●兒玉總督新年書懷

兒玉藤園將軍新年作あり左に報す

朔北風雲與年新。戰袍重遇泰平春。園梅野菊開仍舊。遙拜天皇雨露仁。

●出稼淸人に燒印

バタビヤ發電に據るに蘭領印度出稼支那人にしてバンカ錫鑛山の勞働者中病氣の爲め歸國する者に對し再來を防く目的を以て燒鏝を其の左腕に印しつゝあること發見し支那人立腹一方ならす其の不法を責めたるに蘭國官吏は單に取締を嚴にせるのみと答へ目下紛議を惹起し居れりと

●鐵嶺通信

一月六日　筆山生

▲北地の馬賊

屢報せる北地强暴を極めつゝある馬賊につき最近の狀報を綜合するに彼徒は昌圖の西北金家屯を中心とし奉化壞德八面城より漸次東南に瀰漫し來り開原の以南に於ても時ゝ其出沒を見るに至れり今賊匪に關して傳ふる所によれは數日以前其數既に七千に達し居ることなるか昨接手の報によれは彼等の多くは日露交戰の當時に於て露軍の招募せるものに屬し新式の銃器彈藥を携帶し其行動は敏活にして從來の滿洲馬賊の比にあらす其戰鬪に熟達せる遠く淸兵の及ふ處にあらさるを見れは或は全く露軍訓練の下に養成されたる鋭兵にあらさるなからんか加ふるに日露の平和克復當時に於て露軍の各處に蜂起せし暴動の幹部は招致指嗾せる多數馬賊の解散を行ひ適當なる手段を採る能はす彼等に給與せる兵器の如き回收を爲さすして其儘四散せしめし事實あり各方面に散在せるものゝ如きに至つては其取扱疎略を免れす中には深恨を挾むものすらあり氣息相通して玆に活動を開始せるに基因したるか如く日露兩軍は其駐屯地兵站線に危害を加へさる限り相互の間隔地域之れか防遏討伐に任すへきものなく益々匪徒の跋扈により跳梁を擅にし延きて吉林街道に進出し或は開原の東南村落に迄小部隊の出沒を看るに至れる次第にして其害や輕々看過すへきにあらす且賊匪は勢に乘して徒黨の招聚を行ひつゝあり續ゝ增加の傾向を示し居り亦所在露軍の駐屯するありて兵器彈藥の補給は在來の習慣より打算するも能く之れか調辨を爲すを得へく其乘を恃んて各地如何なる横暴を逞ふせんを保すへからす實に寒心の事に屬せり然れとも南貨の北上するも道途危害を蒙りしを聞かさるを見れは當事者の妥協は夫々進捗實行されつゝあるを認むるを得へきなり

▲北地と通信機關

十二月一日の開放同時我野戰郵便局に於ては公衆郵便の取扱を開始し居りて一般人民は一見特殊の恩典に浴しつゝあるものゝ如くなるか今日に至るも猶切手の賣下機關を設定せす加ふるに郵便物の配達を爲さゝるを以て其取扱は全く有名無實の有樣に屬し不知案内者旅行者の如き殆んと其恩典に浴するものなく一般邦人に向つて居住營業を認可せる寛宏なる當局者にして猶公衆電報の取扱を爲さゝるか如き要は軍規の維持上未た其期に達せさるかなれとも通信機關の敏活を要する近代の實業家にありては到底當局の恩德を唱ふるものなかるへく現に某々商賈の如き幾多の使用人を供へて奉天に派遣し打電返信を求めつゝあるの姿にして一信往復二日を要し商機を逸する甚しと云ふを聞けることあり當局者は少しく其量を大にし仁政に基き將來發展の基礎を定めんとせる邦人の爲めに其機關を開放されんこと切望に堪へさる處なりと說くもの多し

▲外人來る

一昨日開原に現われたる外人三名ありたる由にて同地軍政署は憲兵を附し昨夜當地に護送し來れり其の語る處なりと云ふを聞くに彼等は石工にして露軍に在り平和克復の今日再ひ旅順に赴き其勞働に從事するの目的を以て一行三名南下せるものにして被服言語共に劣等人種なること蔽ふへからす殆んと常識をも具へさる程の人物揃ひにて目下我軍政署に留置中なるか結局日露の條規により旅行違反者として北方に放置さるゝに至るならんか

●得利寺の紀念碑

一昨年六月十三日より十七日に至る得利寺の一大開戰は其後遼陽奉天の大會戰ありしかため光輝の多分を奪ひ去られたるの感あるも此得利寺戰なくんは遼陽奉天の大會戰も彼か如く大捷利を博し得さりしやも知るへからす去れは同戰死者の芳名を永く後世に傳へんとて得利寺兵站司令部は南瓦房店より熊岳城間に於ける戰病死者の遺骨殘灰にして其鄉里に送附せし殘餘のものを集取し新に紀念碑を立て永遠に傳へんとし既に昨年十月三十一日より十二月八日迄に集收埋葬せしもの四百三十五名に及ひたりといふ

●大連貨物の旺盛

近頃大阪より大連行の貨物は多額にして從來大阪商船會社の如きは殆と隔日に出帆せしむに拘らす出貨多數にして搭載に困難を感せんとする程なりしか昨年末に到り正月貨物の出貨大に增加し來り商船定期船三隻の外神戶谷道支店の取扱ひ居れる賴朝、摩耶山の二隻を以てして殆んと連日大阪を出帆せしむる姿なるも尙出貨多數にして此程出帆の摩耶山丸の如きは大阪にて搭載せる貨物の外門司より搭載する先約貨物を以て滿船となり神戶の如きは少額の貨物を積取り得たるに過さすと云ふ

●鐵嶺の商品陳列場

鐵嶺民政署に於ては今回日本商品の陳列場を設置し二月上旬開場の由にて大阪及び神戶の商品陳列のため取引價格及び方法等詳細の說明を付して商品の出陳方を大阪商業會議所及び兵庫縣廳に依賴し送くれりといふ

投書かご

▲日本人會有給書記は云はゞ公吏である然るに鐵道運送業を願つたり河舟運送業を營んだり實に不都合千万じやないか斯く營利にのみ奔走するから肝要な日本人會の業務はメチャ〳〵じや少しく規律を嚴にして欲しい（評議員の一）▲喜代八姉さん新年早々二十五年間も持つた三味線を折つたそうだが中々緣起がよいです今年はキツト芽出度ひ事がござるぞ赤ン坊なだが出來るかも知れぬよ（粹客）▲第三の海軍藝妓はコツソリ落籍されたそうじや旦那は誰れぞ（知度生）▲各料理店は競つて美人を輸入しヤレ一粒選りで御座るのヤレ無類の別嬪で候ふのと披露して居るが其實顏よりも腰を選ん居るやうである就中祇園閣には三枚腰の剛者が居るそうじや（實利家）▲明日はロスキーが逆襲したる一周年當日である當時義勇兵として働きし人々は定めて夢の如く思ふであらふ紀念會を催し治に居て亂を忘れぬやうにせよ（義勇兵の一人）▲愛國婦人會の慈善市は十二三日頃開くとの噂さでしたが果して眞實ですか（公共生）

●落し文

何處の誰が落とせしや（姓名判明せるも特別に見逃す）記者が二本町の四ツ角にて拾ひ上げ見れば左の玉章あり、狀袋には祇園閣にてお俊樣秘親展、とあり余程裙に誤座つて居る鼻下長先生と見ゆ、所でお俊裙に御相談だが能く〳〵御熟考の上泥水稼業を廢して一番花嫁になる氣は御座らぬか穴賢（原文の儘）

一筆啓上致候陳者男子は年齡三十有余にして中等以上の教育素養あり一時は一縣百万の代議員ともなり（餘程大風呂敷ですな）又は新聞記者となり或は實業界或は政治界にも奔走せり（事實なるか疑はし）今は不幸此の營口にありて些々たる營業に從事せるも風雲を得ば必ず成功必ず將來發達期すべきものと信ず（君の不幸は放蕩の結果ならん？必ず不成功必ず不發達に終るにあらずや）此人目下獨身にして御身に秋波を寄せて非常の思を焦せるものなりならば將來永く階老の契りをもなしたり渴望せるものなり（執筆者は媒介者なるや之も疑はし又一夜の情慾を逞するにはあらざる哉）併し御身の境遇と御結緣の關係及び御諾否は如何乞ふ御洩しあらんことを（三面子の察する所彼は實に不幸の身所謂孀寡孤獨の身であるが志想は餘程高尙ですよ）幸に承諾を得らるゝに至ては會見の時刻等後より協定可致候右得貴意候匆々可祝（是非會見御希望なれば此次の健康診斷日に營口病院の門前で會見し給へ）

七日　奈〇生

お俊殿

新年雜詩分明治三十九年六字爲韵

松野汝陰

征虜奏功收甲兵。威宣四表見王正。料知富士峰頭雪。臨照乾坤一段明

萬物育焉天地位。斯文斯質彬々爣。四民鼓腹頌昌平。遠趁唐虞三代治

爆竹聲々驚走驂。王壺春酒任貪婪。宴酣擧座稱觴立。高唱天皇萬歲三

扶桑日出啓蟲蟄。海內謳歌海外揖。討露堂々極弱邦。征淸役後星霜十

何幸微臣忝酌酒。山阿海角天恩厚。至尊登極萬機新。算得春風三十九

尙見王師奏凱旋。偉勳千古汗靑傳。邦交今日多權詐。須記臥薪嘗膽年

初夢六句

初夢のよさと見つるからろ覺ゑ　韜波

初ゆめの雲から落ちて醒めにけり　同

はつゆめの奇しきを母に語りけり　同

はつ夢のよきを語らず秘めにけり　禾乃

初夢やかてとがましさ女の童　同

妹が日記はつゆめの記の長きかな　同

火車開行

▲上行車時刻表

車站名	開午點分	到午點分
新民屯至溝幇子	上六、〇〇	上九、五七
營口至山海關	上八、二〇	下六、〇〇
山海關至唐山	上一二、一八	下六、二〇
山海關至天津	上五、〇〇	下五、五五

▲下行車時刻表

車站名	開午點分	到午點分
北京至山海關	上八、〇〇	下六、二〇
北京至天津	上一一、二〇	下五、四一
北京至塘沽	下二、四〇	下八、三〇
[illegible]	[illegible]	[illegible]

野戰鐵道普通輸送列車發着時刻表

大連奉天間下り列車

驛名	發着	時刻
大連	發午前	九、〇〇
金州	着	一一、〇九
	發	一一、二九
[illegible]	[illegible]	[illegible]

驛名	發着	時刻
遼陽	着午後	三、五〇
	發	四、五五
大石橋	着	一〇、三二
	發	一一、三五
金州	着翌前	二、二〇
	發	三、一〇
大連	着	五、三二

上り列車

旅順營口線下り列車

驛名	發着	時刻
旅順	發午後	一二、〇三
大連	着	五、三二
大石橋	發午前	一、〇〇
營口	着	一、五五

天氣

營口地方　自昨日午後六時至本日午後六時　北の風晴れ

雜報

●上海通信

十二月廿九日　滬上生

▲湖天廻隔して趨教に無由向來貴社益ゝ隆興小生分袂以來不相變黃浦江畔或者波靜なれば塵埃を輕舟に避け或者淑氣融和せば排源の酒に醉つ所爲所行なくして遂に新正の吉に及ぶ思ひ茲に至らば依々たるも不少されども決して御悲み被下間敷木綿衾裡亦生春で小生も如斯して旦の數に洩れずと自からを自からで慰め居り申候

▲平和の如くして平和ならず、滋事多くして滋事の少なき上海は本月廿二日會審衙門事件により血の雨を降し西人を殺すもの四、其他の被害不少る大事件を釀し江南男子の腐敗根性を表はし申候は已經得と御承知の事と存候

▲由來上海に事端を引起す動氣は御定りの西人跋扈專越を忌避し則ち彼れ等の激烈なる勢力の進歩を日々見るにつけ之れを掃地せしめんとなす感念より湧出するもの多しと雖も之の動氣に唯一の後楯ともなり油差とも成り一地方の勢力を提げて宜く愚民平素の不平を暴動に、調和せしむるもの、堅忍持久極力援助成効せしめ、作戰計畫を牙籌する黑幕は常に會館公所なり、吾人の耳朶を去らず近來の珍事たる佛國政府を相手取りたる道路問題、露兵の殺害事件の如き等しく列强政府をして前兆を悔ひ後へに噎若たらしめ全く效果を暗々の内に求めたるは公所會館の强力反抗の位置に立ちたるによる、會館公所の今日まで存在せるは地方地方に勢力を張り北京政府を眼中に置かず自治に安するは西歐十三世紀都府經濟時代のギルトと主權の勢力完全に動かさる時代とを對照翫味せば當然の勢いと存候

▲上海に寧波人の四明公所と廣東人の廣東會館は唯一の立物にして今回の事件廣東人官吏婦人に職由せりと想見せば廣東會館の活動如何ばかり激烈なりしかを思起するに難からず候

▲四川より來る廣東會館の董事の官吏夫人上海に來る途中大古汽船の船員酒錢を强請せしも夫人之を排斥せる結果之の一婦人の爲めに舊來の收入の富源たる習慣を却破せらるゝを杞憂し如何なる手段方法に出づるとするも、其目的を貫かんとする執念は遂に船票を拂はずして乘船せりとの虛言を備え英總領事に稟告し對手方より金銀を騙取し虎狼の慾を遂けんとする無謀に出で、副領事フーエメン氏は遂に之の稟報に接照し之の監禁拘留を敢てしたりとは支那人側の理由にして信するに足らず僅か酒錢の爲め船員の稟告を見たりとは如何に愛顧目に觀察するも錯誤せる如く見た、亦左有らずとするも好副領事たる名譽の肩書在り内外人の上に稱道せらるゝ該氏が如何に自國の船たりとするも一も二もなく輕々敷如斯手段に出てしとは思ひ難く他に、一大原因の存在するものと見る方適當の見解ならんと存し候

▲監禁拘留は正不正なるか吾人の判斷に苦むものなるも拘留の報一部分子の内に傳唱せらるゝや無法を叫し其の非を上げ異口同音騷謗侮慢を罵詈嘲弄し、旻論激說四方に起り之の際に於て已經將來一大騷亂の惹起するをトせるもの有りたるも尙は今回の之の大事件に至るとは何人の念頭にもあらさりしならんと存し候

▲各國領事團は監禁を以て正當と見認むとの決義を成すや、喧囂紛亂收蒐す可からす、廿三日午前遂に大馬路は時ならぬ人血を被はるゝに至り申候

▲良民業を休み店を閉し物情騷然人民其の所に安せす各國軍艦は其の急を報し戰鬪準備の儘入港逐時武裝せる陸戰隊を上陸せしめ一面各國義勇隊非常召集を爲し我外務省の報により上海急帆を命せられたる對島は旭旗翻々入港領事館を主腦として彈壓鎭撫の任に當り小生等は百方の援兵を得たる心地せられ申候暴狀を見るに外人を見るや乘庶雲の如く八方より取り圍み車となく馬車となく手當り次第に破壞して尙は對抗するものあらば殺害の手段に出でるもの、如く成る可く最後の手段を避けたる樣見受けられ申候

▲周馥は特來道臺を接見し其の訓示を見るに北京政府も煩悶の樣子、損害高は目下取調中に候へ共一寸政府打擊の事端を增したるものに候

▲對馬は招商局碼頭瀼太利軍艦と同列に繫留本願寺、日本人俱樂部を兵站として一百名上陸旭旗の下親愛なる我水兵と共に新正を迎ふるは一奇に候　早々

●隨感隨筆

濁水生

▲甘ひ哉露國の政略や、虛傲以て其の心膽を奪ひ、巧辯以て理由を主張し、溫容以て懇談す、尊大傲慢沒要領而して逃げ口上に巧妙を極る老淸國の如き唯た當に露國を學ひて談判初て成効せんなり。戰前に於て露國の淸國に對し事々、着々として成効を觀たる寔に故ある矣。彼れ嘗て遼陽に於て女郎屋を設置せんとす、然れとも自ら其の費用を負擔するは其の本意にあらす即ち支那の官憲に對し云ふて曰く露兵の風紀に關しては注意殊に嚴重なれは萬々、失態非るを信す然とも彼等は皆な共に競氣段々たる血氣の壯丁なり思ふに茲に　れは復た晏如たる能はさるものあり、我に一策あり請ふ試に之を語らむ贊否敢て我の關する所にあらさるも幸に一考せよ、策たるや即ち他なし、特に遊女を設け以て彼等か獸欲に供ふなり、蓋し婦女か萬々一の凌辱を豫防すへき唯一の良案なるなからんか、然れとも我國の婦女を以て供するは忍ひさる所、貴國の婦女を以てする亦た當に然り、若し夫れ日本婦人は斯の種の方面に於て世界に最も珍重せらる、止むなくんば遠く招かんかな、然れとも元と此の案たる、貴國を尊重し其の神聖を汚さゝらんか爲なり一切の費用は當然貴國の負擔を要す、幸に贊成を得は招集は貴國の爲に曲げて我れ其勞に甘せん知らす贊否如何、何爲れぞ夫れ巧妙なるかな、嘗て遼陽に在りたる我か遊女の如き即ち斯の如くして勤に服するに至りしなりと遊女の設備尙は且つ斯の如し以て其の政策の一斑を窺ふへし惡むへき其の遣口聞くも汚しと云はゝ云へ、彼か事物成効の理由は大牢此の邊の事情に基く也公明を街ふて凡て失敗に終る箱庭的政策に比較せば我は寧ろ十點を加へんか否乎

▲遣る哉、露國や、嘗て滿洲三省の露國か羈絆の下に苦むや、恰も帝國の軍票の如く盛んに紙幣を發行して各所に流布せり當時滿洲に於て未だ紙幣に種々文字を記入するの弊風除去せられす即ち露國の紙幣に對しても依然として手形の裏書の如く種々文字を記入して轉々せしめたり、露國以爲らく老國千年の惡習一片の告示、布令は到底之を除去するに足らす若かす土人の眼前見當次第悉く破棄するには。爾來文字の記入しある紙幣を見るや直に破棄して省みす恐るへく其の理由を質問せは傲然叱責して曰く無禮なるかな斯の如きの紙幣は露國に於ては凡て無効なり。復た他を云はす官廳に於て然り、店舖に在ても亦然り、見付つたるが運の盡き、千圓札も鼻紙と選ふ無きなり、道路即ち相互に戒めて終に文字の記入を止めたりとなり是非請ふ之を語るを止めよ土人心中の不滿又た暫く云ふを止めよ滿洲千歲の惡風、弊俗、一朝にして根絕しは寔に露國か斯の變的遣口に基きたる也、軍票今日の面目思へは復た、露國か庇蔭與りて力あるかな世間狂と呼ひ賊と呼ふも我は益々變からの男らしき所を愛せんとす

▲怖ひ哉、營口の往時や、强盜白晝家人を恐迫し馬賊、夜陰隊伍を組織して市中を橫行す、官憲の微力寧ろ驚くに耐へたらすや、人命財產の危險、宛乎として風前の燈火なり、住民が屋上各々番人を上せ終夜以て警戒に任せしめたる所謂余儀なき防衛の道乎其後ち露國の淸國官憲を放逐し軍事占領を以て營口の保安に任するも馬賊の出沒猖盜の橫行依然たり後ち露國の諸外國人の非難に余義なくせられ、羅卒の數を增し步哨の人員を加へ果ては士官に任命して夜警を嚴重に爲すに於て稍ゝ住民の小康を得たりと雖も、追剝强盜尙は時に市中の一角に現るあり、未だ土人をして晏如たる能はさらしめき今回の戰役に於て日兵露兵を放逐し更に代りて營口の治安を維持するに及びて即ち初て全く營口の靜平を見るには至りしなり、近來口善惡なき者か市内の野犬撲殺を喋々する如き以て靜平の反證と謂ふべし

▲上に誅求の憂無く下に强盜の難なし而して富は益ゝ增加し、市街は愈ゝ美觀を極む入る所の商人は事業の連合を求め出る所の商人は交際の冷却せさらん事を請ふ、嗚呼營口今日の土人の如き夫れ天國に在る者か試に數年の將來を追想すれば轉々、今昔の感に耐へさるべし

●恐るべき大發明　空中水雷（日本語にては不適當の語なり單に空中雷と譯すれば可なるも夫れにては又理解十分ならずツマリ空中にて發射する水雷の如きものと云ふ意）とも名づくべきものにて三脚臺より空中に向つて發射し目的地に命中すれば猛烈なる爆裂に伴うて先頭裝置の榴散彈其周邊に飛散して多大の損害を敵軍に與ふる武器なり發射の方法は狼煙を上ぐるが如く前進は空雷其れ自身の力にて爲すなり近時米國の發明に係り紐育のロンダ、アイランドに於て實地試驗を行ひしに頗る好成績なりしと

廣告

特別室落成披露
座敷は凡て日本式取扱至極鄭重に可仕候間陸續御來宿あらんことを伏て奉希上候
金城ホテル旅館部

藝妓仲居新來披露
今回藝妓仲居婦無類の別嬪數十名件れ参り候間不相變御引立の程奉願上候
但し凡て純粹の江戸っ子
金城館料理部

新玉の御慶芽出度申納候
營口　高砂ホテル

此度新たに内地より藝妓仲居十數名を連れ参り候間御光來の上御評判の程願上候　草々
營口　高砂

御旅館兼待合所
並に うどん、そば
今般大々的勉强を以て右營業仕候間御乘降の都度御休泊被下度奉希候
牛家屯停車場前　若松家
各位様

奉天日本旅館
瀋陽館
家屋宏壯清潔　接待優遇懇切
開業　全時=開放
奉天小西門外大街路北

御旅館
奉天　茂林館
小西邊門内路北
日本物品依托賣買幷ニ滿洲各產物毛皮類ノ求ニ應ズ
追テ　家屋宏壯接待優遇

和洋會席御料理
一、弊店の特色は座敷廣くして大宴會に適當なり宴會の時は舞台に造附且又會費等は特に割引大勉强仕候
二、奉天支店も本店同樣に大勉强仕候間御光來被成下度候
營口永世街二本町　日本館本店
奉天小西門外大十字街北入橋町（電話百三十番）　日本館支店
各位様

會席料理
營口警務課前南に入る
三日月

天津
八千代旅館
（元生駒跡）
閘口大和町
電話新參〇參番

大連東洋ホテル
●大連東洋ホテル　大連鐵道停車場附近民政署前通り兒玉町に在り
●大連東洋ホテル　四階建にして而も高地に建設しあるを以て大連港灣の山水及大連市街の光景は一望の下にあり
●大連東洋ホテル　和洋客室の設備あり内外貴賓の宿泊に適す
大連東洋ホテル

營口
御會席料理
南隣慶樂温泉
一力
營口永世街
堀万助

旅館　東京樓
營口中央市場前
萬事勉强乘車乘船好位置
店主　熊田兼次郎（電話百七十八番）
即席和洋料理　東京樓支店（電話四十四番）
西洋料理仕出し御需に應ず

營口第壹
慶樂温泉
淸水滾々湧出
永世街一力南側

北京
扶桑旅館
東單牌樓大街路西
客室淸潔料理鮮新

天津
御旅館
芙蓉館
駐屯軍御用
並西洋料理
（電話[illegible]十一番）

Yano & Co.
矢野洋行
Telephone No. 137 電話一三七

諸雜貨、家道具類、呉服反物、蒲團類、婦人用小間物、下駄、足袋、食料品、其他種々

今回新荷着致候間直段も極安價を以て御用に可應候に付何卒多少に不拘御用命の程偏に奉願上候

謹言

銘酒 **白鶴**

新荷着大安賣
新年儀式用品

雜貨商
營口元神廟街 **井門洋行**
遼陽西門外 **同支店**

謹賀新年

今般永世街通平野町筋へ轉居し一層安價に販賣致候間舊に倍し御用命の程奉願上候

書籍、銘茶
賣藥、雜貨商
博文館營口代理店
大坂屋

本家 日本東京神田鍛冶町 堀内大藥房

淺田飴（あさだあめ）

肺癆痰喘氣急傷風痰嗽小兒風痰病後體弱肺病一切立見奇功
◎たんせき一切◎肺病の特藥◎ひきかぜ◎病後のよわり◎弱き人の滋藥

特約大販賣
營口永世街 東瀛大藥房

標子 木板 料木 發賣

營口青堆子
清水寧木局

澤亀は醇良にして風味高尚なり

並ニ 札幌ビール 朝日ビール
政府專賣口付紙卷莨 朝日 大和
酢 醬油 瓶詰樽詰
菓子 罐詰 色々
洋酒類 取次販賣

釀造發賣元
大阪府堺市九間町
北海道小樽湊町
臺灣臺北街書院
臺灣基隆街石牌
臺灣臺南街下南河
北海道函館區辨天町
清國遼陽城內西街
清國大連監部
清國牛莊港東營口

宅合名會社
本店
小樽支店
臺北支店
基隆支店
臺南支店
函館出張店
遼陽出張店
大連出張店
營口支店

雜貨卸商

在營口元神廟街
關東公司雜貨部

大日本帝國醫科大學模範藥局御用酒
攝津灘石崎合資會社釀造

醇良清酒 **澤之鶴**

滿洲特約大販賣

裕和盛販賣品目
○酒保用品雜貨
○日本酒澤之鶴樽詰瓶詰
○洋酒食料品各種
○和洋煙草各種
○菓子類各種

清國營口西北街
電話八十一番
裕和盛號支店

裕和盛本支店所在地
○支店韓國京城、仁川、木浦、旅順、鐵嶺、
○支店清國、芝罘
○本日本長崎梅香崎

裕和盛は清商中日本通の張本
澤之鶴は既に評定ある天美祿

SPECIAL LIGHT
(PILESNER BEER)

スペシャルライト賣出し

スペシャルライト、はピルスナビールにして此種のビールは日本に於ては弊社始めて之を釀造せり
スペシャルライト、は高價を拂ひて元料を特選せり
スペシャルライト、は其味輕くして高尚なり

釀造元 **大阪朝日麥酒株式會社**
營口發賣 **關東公司雜貨部**

工

營口元神廟前
飯塚工程局材料部
（電話百三十五番）

弊局土木建築材料品の各産地と特約を結び廉價を以て多少に不拘賣却仕候間御引立の程奉希上候
一北海道産松大角材外種々
一石灰、石材、敷石、碎石、煉瓦等
一日本石炭數種

雜貨

醬油 味噌 清酒

營口西北街
阪神組

滿洲大販賣所

營口出張店は結氷中引揚ゲ候ニ付御用向ノ御方ハ遼陽出張店へ御來店アリタシ

遼陽停車場前
池上出張店

新荷着急告
御徳用品

○食料罐詰○
○塩魚干魚鰹節○
○乾物色々○
○亀甲万印醬油○
○赤白味噌○
○菓子類数種○
○銘茶各種○

林屋洋行
營口永世街警務課前南へ入ル

優等清酒

諸罐詰
雜貨類
菓子類
卸賣

三成組

論說

論吉林木植

王者治世。莫不講求富庶。蓋民富而後國富。國富而後兵強。自然之道也。然富民之術亦多矣。通商誨工。訓農務財生衆食寡。何莫非富民利國之要圖。而其效最大而最著者。要莫如樹藝一事。語云。百歲樹德。十歲樹木。渭川千畝竹。安邑千樹棗。燕秦千樹栗。其人皆與千戶侯等。今東省地方寥廓。物產豐饒。而吉林一省。崇山峻嶺。森林所在尤多。其最著者。則有如塞齊窩稽。耶穆窩稽。張廣木大蠟。趙大脊。大嶺。花松甸子。鳳凰山等處。產木甚夥。任至一處。干霄蔽日。鬱鬱葱葱。其木植約分數類。質至堅者。如粗榆黃榆。色木。青剛柳。花櫃柳。擰筋子。白杉子。水冬瓜。爆馬子等木是也。質至細者。如椴木。暖木是也。質細而具有天然花紋者。如赤白松。黃花松。樺木。老鸛眼。刺楸。核屯楸。黃柏等木是也。結實者。如梨。如棗。如唐棣。桃樹。蘋果。沙果。香水梨。果松等是也。松又有果松油松杉松蹦松之異。其最下者爲榆楊柳。具此自然宏富之美利。而土人不但不加以培植灌溉之功。而且作踐之。蹂躪之。而曾不少惜。偶有徙宅卜居者。相其地。先伐其木。偃臥滿地。俟其朽而一以火焚之。欣欣然自以爲斬荆棘。闢草萊。計莫善於此也。而從未有於此取不禁而用不竭之木植。講求工藝之法。發明制作之用。此豈木之性也哉。以余所聞。其用亦未始不宏。但未能擴而充之耳。如赤白松。可以爲箱匣棹几也。而亦可以爲棺。核宅楸亦如之。且其皮可以束物。黃花松。本質華麗。不雕而雕之梁棟也。〔黃柏亦如之。樺木。皮可爲弓。瘦可爲棹面。食具。與馬鞍也。幹可爲箭桿。老鸛眼可爲槍柄。粗榆可爲車軸。爲輞。黃榆可作車轅。青剛柳可爲車輔。色木。擰筋子。質細而堅硬。如油坊榨機一切木屑等具。用之最宜。水冬瓜。可作硯。爆馬子可爲棺。經年不朽。椴木最合雕刻之用。其皮可以漚麻。家榆可作車頭。鋪道路。果松。杉松。可爲梁棟。作墻壁。爲棺爲椽。暖木可以作杖。油松可以爲棺。杏梨諸品。可作香料。又如柞之一樹。遍地皆是。其葉可飼蚕。膠可作象皮。結子名橡。可以備荒。可以豢豚。凡此皆其用之已彰。確有可據者。天生萬物以爲人用。而乃毫不愛惜。以其多也。無論質之粗細何如。幹之大小何如。動輒施以斧斤。幾若供薪外無所用者。豈不大可惜耶。春秋以來。言樹藝者。莫如管子地員之篇。實賈思勰齊民要術之所自也。他若秦専之農書。秦湛之蚕書。亦莫不兼詳種植之法。况乎吉林木植。業有根據。稍加愛護以儲其源。精求工作以大其用。得其法而行之。有不家給人足者哉。獨是利歸於民。而所以導之者上也。民有求利之意。而無興利之才。惟上有利民之心。斯可行利民之政。苟在上者。急設森林學堂。仿照各國森林制度。妥定章程。佐以工藝學堂。各隨其材。以神其用。乘此鐵路大通運往各地。其獲利自有無窮者。補闕之柳。著作之林。太守之桑。李公之柳。夫何難與郇黍召棠。後先幷美也哉。願以陳於吉省之關心民事者。

北京電報

●**中日條約之批准** 日前彼我全權大使所磋商協定之中日條約日昨上午已經中國 皇上批准矣（西一月十日到）

東京電報

●駐美德兩國日本大使之任命 此次日本政府特派子爵青木周藏君爲駐美大使又陞現任駐德公使井上勝之助君爲駐德大使云（西一月十日到）

中外要聞

●西藏礦產 聞外部接到西藏辦事大臣來電稱衛藏後藏著名鑛產業經查勘現有苗者凡五金晶煤在內共八十三處其餘未經查勘亦未辨識何鑛一俟考查的確再爲電覆

●裁汰旗兵之預備 政務王大臣議裁汰旗兵恐生變亂現擬將八旗老軍原餉裁去每名均給銀二兩作爲養贍當責成各旗營都統統領嚴行查點以杜弊竇云云聞此舉明年可見實行

●改定服制 政務處議改定服制現擬將各學堂內學員學生各營兵官兵丁凡有操演者均改著洋式衣服常川進內當差及各衙門司員均照常服色云外面謠傳剪髮士農工商服有定制之說實則政務王大臣現未議到

●俄難民逗留伊犁 伊犁將軍電告該地突有俄國男女二百四十餘名口入境索買食物本將軍恐有別情當派通曉俄語營官查詢係該國遇難遷逃平民意在逗留因與約章有礙未便擅專特希大部垂示辦法云云昨外部已去電矣

●調查開埠各處 昨聞外商部大臣會議北地衝要之處以何地最先開放當電咨該將軍大臣選擇地勢繪圖貼說咨送到部以憑具奏云云

●整頓學務 榮大軍機現在極力整頓學界擬將各學堂監督及學員學生等從新徹底考試以期拔取眞才免致濫竽充數俟京內舉辦之後再通咨各省將歷有新設學堂一律考試均照學部章程辦理云

●創設女學 探聞日前某福晉擬在京師城內創設女學堂專教滿漢婦女粗淺國文工藝以期日後得以自立刻已覓有地址先行開辦俟辦有成效再當奏明請款云

●地面改良 聞京師城外各地面自調巡警兵以來刻下該兵認眞測量街道無荒僻之巷亦必詳細查看不准堆積糞土汚穢並將各巷胡同名目一一註冊較前此之循行大爲改良

●察看武員 聞兵部會同練兵處咨行各省督撫所有實缺提督總兵三年期滿來京 陛見如有統帶之責不克卸委者自行呈明督撫據情代奏來京 陛見 兩宮察看以重戎行而獎人才

●辦理酒捐 聞慶親王會商直督擬在直省征抽酒捐政府以事易辦故通行各省督撫仿照辦理茲聞粤督已奉到廷寄飭令屬下官吏停征燒鍋稅以後擬專向沽肆征取並參定章程送呈查核

●保奏畢業生 聞學堂畢業生考授舉人以知縣用之林大令於外交政法等學是其專門管學大臣張野秋尚書以近來交涉日繁需員孔亟特具摺奏請將該員改授京卿之職歸外務部學習行走云云

●內閣籌款 聞內閣飯銀向於歲底由山海關解交銀款若干分別散放查自光緒二十九年此款未經解到所有當差人員困苦異常去歲內閣侍讀學士歷陳困苦情形蒙中堂籌款減成放給近因各中書當差勤苦內閣陸總辦同明中堂奏催該處將彙年欠解之款年前全數解清以期酌量放給云云

●飭鑄金幣 聞日前 皇太后曾飭北洋製造局鼓鑄金幣若干以備需用聞有某大臣奏擬各省銀行開辦後即將戶部所存金款酌量撥鑄金元以期隨收隨鑄免生弊端云云

●守備出缺 探聞京師中營海甸暢春園汎守備出缺所擬各營應補之千總閆啓彬王金印張殿英各員均有拿獲斬梟案件昨聞奉堂諭所遺守備員缺著西珠榮市汎千總閆啓彬充補定期引見云

●奉省交涉調員 聞日前奉天將軍趙次帥因奉省交涉繁要迭有電致政府諸公請速揀派熟悉交涉幹員來奉以資臂助云

雜報

●守財不愼 本埠西街東和泰有舖夥杜姓者十數年來辦事頗穩前日由該舖以皮匧鍵扃羌帖參萬元携乘瀛車往天津至溝幇子停站適有二人路旁格門而杜置匧身邊凭檻觀望一轉瞬間匧竟無蹟乃遍向搜尋底無影響云

●商僮疎失 本埠合記烟桿舖前日着其舖僮袖匧手帖兩扎一扎參仟元一扎壹仟八百元向西街某商繳付及至該商出袖視之僅有一札參仟元者其壹仟八百元者竟無蹟矣乃廻想中途鼊袖曾揮二札落地偬倥拋起蓄遺一札矣回向舖主愴述失累之由該舖急揭賞帖言有撿者謝儀二百元知有撿者送信確實謝儀五十元

●邊車來埠 昨聞埠民傳云近年北地諸貨皆空是故東北邊外各車因販運來埠今冬盛常十倍絡繹不絕每日約四五百輛豆載屬多油載十分有二豆餅寥寥現下東埠諸店院內無處容車多於街衢停驂秣馬云

叢談

●蘇大濶 粵報云鄉人某甲初至省逢人物輒以詢其同鄉日者又問省城中人誰最闊者或對之曰蘇大濶某曰何以見得曰因他出門必坐四人大轎所佔街道極闊故人咸以大濶稱之耳某沈思良久曰汝等勿欺我我細想抬的必是一件粗重貨斷不是人若是人我也曾見過闊佬都係坐三跑轎的怎麼要到四個人抬至叫做濶

●王大帥 又云羊城某學究埋頭窻下日者科舉既廢始漸學人充時派取各報紙堆滿案頭前日偶檢一張群報在手見有班本一欄內有王大帥出洋字樣卽肆口謾罵曰我時常說有箇王大帥又幾時有過王大帥出洋客乃笑解之曰虧你是箇南海人連那个做庠科的王廣齡你都不識 曰王廣齡做庠科我曾被他嚇詐過的就是這个混充辦事浮開數目的東西麼但不知爲何又稱大帥客曰大帥二字是他口頭禪故人替他起个徽號耳某曰好好如此看來報紙眞是無一字無來歷

NEWCHWANG, THURSDAY, JAN. 11, 1906.

THE HAND OF DIVINE PROVIDENCE (PART XXI).

Japan could hope for no intervention of justice from man. She saw that the only hope left for protecting her just right to the Peninsula lay in an appeal to force against the formidable gang. And that before she could find time to take breath after the 9 months' exhausting warfare with China. The sickening cowardice of the gang had chosen for the commission of their crime upon the victim the very moment of her prostration from the long tremendous exertions. With her resisting power at the lowest ebb, she had to fight it out with the mighty combination all fresh in vigour. She was clearly aware that, in this world of anarchy below, she could count upon no justice to avenge her total destruction, if such was to be her fate at the end of the contemplated unequal struggle, as 9 chances out of 10 did point to this calamitous outcome. She was conjronted with the choice of either alternative. Would she hold fast on to her claim on Liaotung and fight at the risk of her almost certain downfall? Or else would she submit to the nefarious proposal and part with her Liaotung for the mere beggarly pittance? If this was not a piece of highway robbery pure and simple, what else can be one? Wisdom counselled to her submission. And yet the burning shame in the submission! Pride was very hard to be dethroned. But wisdom held sway and Japan did submit at last. A submission wrenched under these circumstances can be in nowise interpreted as a consent, not even as a reluctant consent. It was a submission of a victim overpowered by a gang of murderous robbers. The surrender of property by the victim was not a voluntary act, but an act under the most unjust and forcible compulsion. The victim's signature put on any deed of transfer under a necessity like this is absolutely void. The very life having been threatened by the overpowering gang, no room whatever had been left to the victim for free volition. The surrender was made under a necessity—the most intense necessity under which petty pride might be sacrificed without a blemish upon the honour of a nation. Liaotung was not the key to Japan's independence, as Korea is. Nor would its surrender mean to Japan the bartering of soul. It will only please God to see any one giving way to such a necessity. For, He clearly loves life which He has given. It is a sacred gift and trust, not to be lightly thrown away for the sake of saving a piece of property. Has He not to the end of its righteous preservation granted to man the extraordinary right to kill—to kill in self-defence? Hence, in God's sight, Japan, the legitimate owner of the Peninsula of Liaotung ever after the Japan-China War.

The same blind eagerness with which the impotent Korea had sougqt to prevent a collapse by leaning upon China of apparently immeasurable strength before the Japan-China War, flung China herself, on the bitterest morn of self-disillusion about the overrated greatness of her power after the war, into the open arms of the smooth-tongued courteous robbers, who flaunted their superiority to her little conqueror by forcing the humiliating submission upon her. The support poor China chose then to lean upon, sprang the trap-door open beneath her feet, to precipitate her into blank eternity, just prior to the Japan-Russia War, exactly as had been the case with the more imbecile Korea on the eve of the Japan-China War 10 years before.

Mr. and Mrs. Fulford entertained last Tuesday evening to an enjoyable dinner Mr. and Mrs. Sammons, Mr. and Mrs. Segawa, Lt.-Col. Yokura, Mr. Higgs, Mr. Alway, and Mr. Okabe.

The Russian flag is seen flying for the first time since the Japanese occupation of the port, at the top of the flag-staff in the premises of the French Consulate recently closed. Mr. Nikitine, Acting Vice-Consul for Russia, sent round a circular yesterday, announcing the flag-raising, along with his office hours which extend from 10 to 12 in the morning and from 2 to 4 in the afternoon.

We learn from a Peking telegram of yesterday's date that H.I.M. the Emperor of China has ratified the China-Japan agreements lately arrived at, at the Peking Conference.

列車時刻

奉天至北京　天津至北京　山海關至北京

唐山至山海關　山海關至營口　溝幇子至新民

大連 發午前 一〇、四九

大石橋 着翌前 一二、二〇

昨日の氣溫 最高溫度三十二度九 最低溫度十七度四

營口旅館料理店案內（いろは順）

旅館 第一營口ホテル 元神廟街九十六號
旅館 第二營口ホテル 河岸通り
料理 第三樓 元神廟街三十二號 店主 粕屋忠兵衛
料理 入船亭 永世街百八十三號 店主 谷初次郎
旅館 日營ホテル 河岸通り 店主 井上源吉
料理 東京館 永世街八十六號 店主 村上京四郎
旅館 東茂旅館 西北街百七十三號 正金銀行西三程
旅館 千代田旅館 永世街甲八十七號 店主 高橋きみ
料理 沖の島 永世街十八號 店主 中川彌三郎
料理 吉野亭 永世街八十六號 店主 坪田正好
旅館 竹村館 永世街二十二號（電話五一）店主 麻田久二
旅館 料理 高砂ホテル 高砂亭 西北街 店主片山小みつ（電話一四五番）
南洲旅館 御用達商 濱田新之助 南永世街拾九號
旅館 彌生館 永世街百六十七號
料理 やよひ 永世街百六十七號 店主 宮下只七郎
料理 滿月 平野町百八十二號（電話一六二）店主 青木勝惠
料理 滿洲樓 西北街二百五十二號 店主 直塚勝一
料理 萬梅 豊濟門街第百〇四號 店主 田島彌助
御料理 まんなをし 永世街字二本町二百五十九号 元吉田屋跡 店主 和田常松

料理 松酒家 元神廟街 矢野洋行向ひ 店主 山本壽三郎
料理 醉花園
旅館 澁谷旅館 永世街百二十七號 店主 澁田留吉
旅館 大和館 永世街六號
料理 第二大和館 永世街百六十六號 店主 前田九一郎
料理 曙館 永世街平野町 營口座向
旅館 金城ホテル 永世街百六十六號
料理 第二金城ホテル 永世街百六十六號 店主 齋藤富次郎
旅館 東雲旅館 永世街七號 店主 谷口今朝太郎
營口軍政署御用旅館 東雲 主任 谷口今朝太郎
さるそば 第一更科 さるそば 第二更科 營口元神廟街 永世街鶴の湯角
琴三味線處 并に張替附屬品一切 永世街八十五號二本町角 土生音樂堂
和洋御料理 東京一流 かき飯 第二東京館 元神廟街 店主 松田平四郎

遼陽旅館料理屋案內

旅館料理業 日營ホテル支店 主任 井上源吉
御料理會席 菊水館 主任 朝枝團捴
旅館西洋料理 遼陽館 主任 永瀬宇吉
旅館料理業 公陽館 主任 宮川秀基
御料理會席 末廣屋 主任 山根初之亟

御料理 色々應御注文 凱旋亭 主任 古谷庄太郎
旅館御料理 遼塔ホテル 主任 木村常吉
遼陽兵站司令部指定ホテル 遼陽俱樂部 營口東雲館支店 主任 谷口今朝太郎
會席 玉家 主任 西野治三郎
御料理會席 來々亭 主任 石田清

爲替相場（一月十日）

日本向軍票百圓に付金九十圓
上海は百圓に付六十七兩四錢五分
天津向は百圓に付一百〇八圓
芝罘は天津と同直段

日本品最近物價表 加藤洋行調査

菊正宗 樽物類 三斗九升入 銀二十圓
櫻正宗 四斗四升入 同十七圓
正宗 瓶詰四打 同十五圓
同十圓
鮪 四打入 同十三圓
ラッキヨ 五打 同十四圓五十錢
辛子漬 四打 同九圓五十錢
フキ 全 同八圓
栄螺 全 同十四圓
鷲ミルク 全 同十八圓
寶來 菓子類 百斤入 加藤洋行
滋養豆 全 同二十六圓
酒茶樂 百三十斤入 同二十五圓
ビスケット 五十磅入 同二十七圓
同二十三圓

MANCHURIA DAILY REPORT.
Subscription 4 cts. a copy
80 cts. per month.
$2.30 per 3 months.

本紙定價
一枚ニ付 銀四仙
一ヶ月前金 銀八十仙
半ヶ年前金 銀四弗八十仙
一ヶ年前金 銀九弗六十仙
廣告 二十一字詰一行一回 銀二十一仙

營口永世街 營口印字局

正札特別廉價 雜貨賣出し
一婦人髮道具一切及化粧品色々
一防寒シャツ手袋類
一靴下帽子類
一鑵詰及履物
一小間物一切
一賣藥色々
質屋 永世街森病院隣 和清洋行 志田ます

●白米 ●石炭 ●干魚 ●建築用材木
●糯白米 ●木炭 ●鹽魚 ●洋釘 ●亞鉛板
營口永世街八十號 喜久洋行（電話百五十二番）
卸小賣致候間御用の節は電話又は端書にて御通知次第直に持參可仕候也

酒保品諸雜貨御商 神崎洋行
營口永世街甲百廿七號警務課前
▲其ノ外新着種々安價大勉强▼

倉庫業
倉庫位置
郵船會社碼頭ヨリ西二丁余
商船會社碼頭筋向イ
河岸ヘ半町ニシテ馬車ニ陸場ゲ便最適當ナル位置
營口綏牙門街（公和窰）院內 新玉號倉庫部（電話一五七號）

東洋醫院 竹村旅館ノ側ヨリ河岸ニ通ズル横町ノ中央角（永世街十八号）午前宅診午后往診入院隨時 山田長

弊店義開業以來御華客樣の御愛顧御引立に預り千萬奉謝候偖て今度遼陽に支店を設け旅館會席御料理相營み可申候間本店同樣御負最御引立の程偏に御願ひ申上候先は御禮旁〻御披露迄早々
營口元神廟街第四十三号 和洋料理 松月亭
遼陽城內西街百十七号 旅館 和洋料理 會席 滿洲ホテル
御客樣各位

加藤洋行 SK

酒保諸君へ急告

弊店儀今回酒保品全部相片付け度特別大見切賣致す可く候に付至急御來店の上御相談被下度願上候也

●麒麟正宗
●諸罐詰類
●卷紙、狀袋
●菓子、砂糖

其他諸雜貨一切取揃へ誠實を旨とし精々勉强仕る可く候間多少に拘らす御用命被下度奉願上候

S.KATO & Co.
Chah Tung.
Yingkow, Telephone No. 80.
The principal shop.
Japanese Concession, Tientsin,
General Store-keeper & Commission merchant.

銘酒 菊正宗新着!!
營口明覽半定價にて差上ます
祝新年 雜貨商
本店 天津日本租界 支店 營口 北京 出張所 遼陽 大阪
加藤洋行（營口電話八十番）